

“こうべ”の社会福祉協議会  
地域福祉推進計画2025



広げる理解  
広がる参加  
互いさまの  
つくり



## ビジョン Vision

“こうべ”の社協が実現したい未来の姿

# 広げる理解 広がる参加 お互いさまの 地域づくり

### ことば

#### 地域

地域という言葉は、生活の基盤となる圏域、住民が参加し課題を解決する力、といったような意味合いで使われることがあります。この計画では地域を「身近に感じる、暮らしを良くしていこうと思える生活圏域」としています。

#### 地域福祉

住み慣れた地域で誰もが安心して自立した生活をおくることができるように。住民のみなさんをはじめ多くの人や団体が参加しながら、暮らしの困りごとを共有し、解決に向けた取り組みを行うこと。

#### “こうべ”の社協

神戸では、市社会福祉協議会(市社協)と区社会福祉協議会(区社協)が、一体となって地域福祉活動を進めています。この計画では、市と区の社会福祉協議会(市・区社協)を合わせて「“こうべ”の社協」と呼びます。

## ミッション Mission

“こうべ”の社協が行うこと

## 気づき・共感を育む

ともに支え合う社会にするためには、くらしの困りごとを抱えている誰かの存在に気付くこと、その方の悩みに寄り添う気持ちを抱くこと、誰もが持っている優しさや思いやり、助け合いの気持ちを育み拡げることが大切です。

“こうべ”の社協は、くらしの困りごとを解決するため、地域の皆さんの助け合いの気持ちを後押しし、福祉の心の輪を広げます。

### Point 取り組みの視点・ポイント

- 思いやりの心を育みます
- 福祉の“魅力”を発信します
- 支え合う気持ちを後押しします
- 日頃から災害への備えを進めます

## くらしに寄り添う

障がいがあっても、高齢になっても、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けたい。そんな想いを形にできるように、一人ひとりの悩みを受け止め、「くらしを守り、自分らしく生きる」ための働きかけを、ご本人に寄り添いな

がら進めます。生きがいややりがい、地域とのつながりづくりを意識しながら福祉の専門職や地域の皆さんと一緒に、一人ひとりのくらしを支えていきます。

### Point 取り組みの視点・ポイント

- 困りごとをまっすぐ受け止めます
- 自分らしく暮らせるように支えます

## つながり、支え合う

ともに支え合う社会にするために、自分のまわりに少しだけ目を向け、心を寄せ、その人らしさを認め合える地域を目指します。人それぞれの得意と苦手をうまく補い合いな

がら、互いに支え合い、将来の自分を含む全ての人々が幸せになる取り組みを進めていきます。

### Point 取り組みの視点・ポイント

- 支え合い活動につなげるために、話し合う場を作ります
- 支え合い活動が地域に根付くように応援します
- 支え合い活動のしくみを創り出します
- 違いや文化を認め合う地域を目指します

## もくじ

### 1 ビジョンとミッション ..... P4~

- ビジョン “こうべ”の社協が実現したい未来の姿
- ミッション “こうべ”の社協が行うこと

### 2 今、地域で起きていること ..... P19~

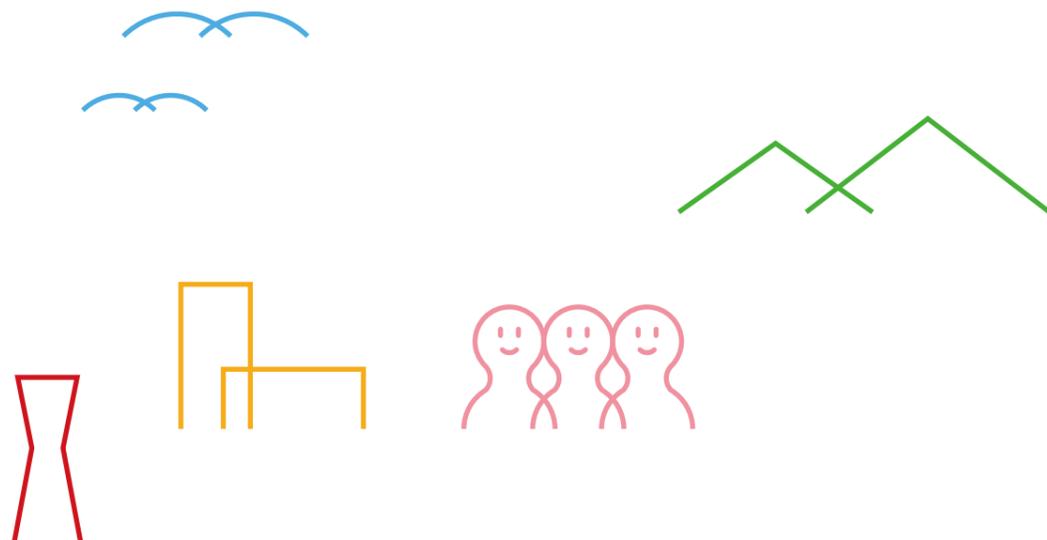
- 暮らしの困りごとが複雑化、さらに支え合いが必要な社会へ
- 多くの重なる困りごとを、お互いさまの気持ちで解決する
- 地域の課題は世界の課題、SDGsを日々推進していく

### 3 地域福祉活動の進めかた ..... P24~

- 「舞台は地域」「主役は住民」を胸に取り組む

### 4 地域福祉推進計画について ..... P27~

- みんなでともに支え合う社会を目指す道しるべ

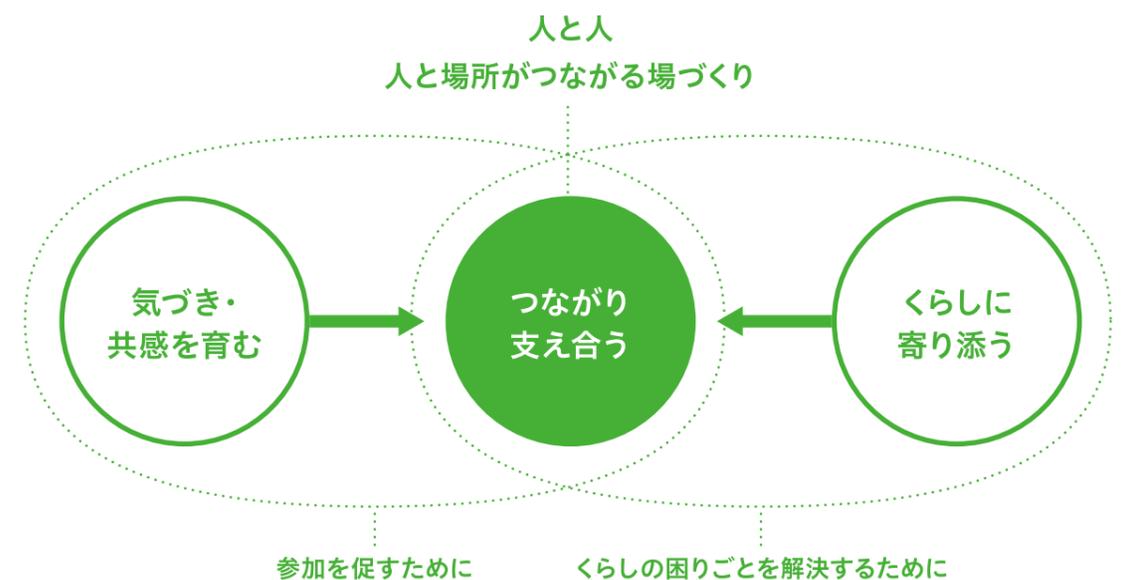


ビジョン *Vision* “こうべ”の社協が実現したい未来の姿

拡げる理解  
拡がる参加  
お互いさまの  
地域づくり

ミッション *Mission* “こうべ”の社協が行うこと

気づき・共感を育む  
暮らしに寄り添う  
つながり、支え合う



## ビジョン Vision “こうべ”の社協が実現したい未来の姿

**広げる理解**  
**広がる参加**  
**お互いさまの**  
**地域づくり**

ともに支え合う社会にするためには、地域に暮らす人々がつながり合い、お互いを認め合いながら、誰かを支え、また自分自身が困ったときには誰かの助けを得られるような「お互いさまの関係」を広げていくことが大切です。

地域の皆さん一人ひとりが主役となって、誰もが幸せを感じることができるように。

「広げる理解 広がる参加 お互いさまの地域づくり」に取り組んでいきましょう。

神戸では、1977年に「神戸市民の福祉をまもる条例」ができました。このなかでは、「市民自らが福祉の担い手として福祉の向上に役割を持ち責任を果たすこと」、「行政・事業者だけでなく一体となって社会的な連帯を実現すること」が目標とされています。

その条例ができる前から、神戸ではひとり暮らしの高齢者への友愛訪問活動やふれあい給食サービス活動など、市民が地域福祉活動の中心的な役割を担う活動が多く行われていました。

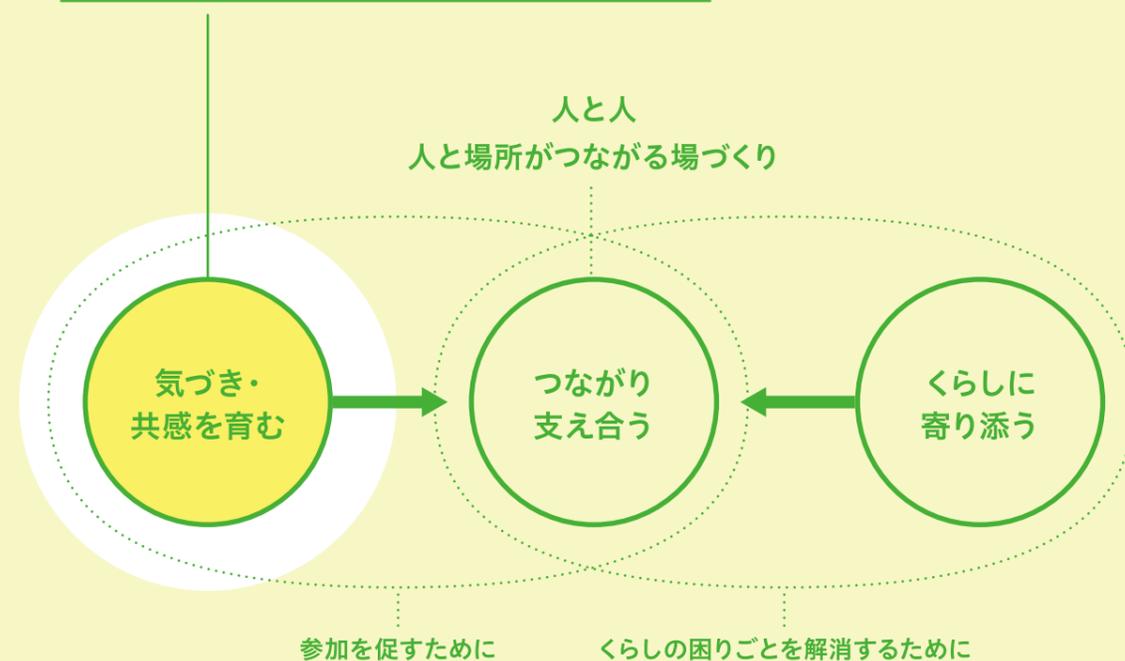
また、阪神・淡路大震災後、多くの市民が自発的にボランティア活動に参加し、お互いに助け合う新たな運動が盛んに行われ「ボランティア元年」という言葉も生まれました。

活力のあるNPOが数多く生まれ、多様な活動が行われているのも神戸の特徴です。

神戸には、こうした素地があります。これまでも、そしてこれからも、神戸のまちで誰もが安心して暮らせるように、市民や事業者、行政・福祉施設など様々な人や団体と協力し合いながら、地域づくりを進めていきましょう。

## ミッション Mission “こうべ”の社協が行うこと

### 気づき・共感を育む



ともに支え合う社会にするためには、くらしの困りごとを抱えている誰かの存在に気付くこと、その方の悩みに寄り添う気持ちを抱くこと、誰もが持っている優しさや思いやり、助け合いの気持ちを育み広げることが大切です。

“こうべ”の社協は、くらしの困りごとを解決するため、地域の皆さんの助け合いの気持ちを後押しし、福祉の心の輪を広げます。

～思いやりの心を育みます～

ともに支え合う社会にするためには、まず自分たちが暮らすまちにどのような課題があるのかを知ることから始まります。地域で暮らす人たちのくらしの困りごとや悩みに目を向け、気づきと共感を育むための福祉教育や啓発活動に取り組みます。

“福祉は誰にでも関わりのあるもの”という理解を拡げていきます。

背景

様々なサービスが充実し、便利になるにつれて、誰かに頼らなくても日々のくらしを営むことができるようになりました。

しかし、便利さと引き換えに、周囲の人たちとのつながりや関心が薄れつつあります。

取り組み例

子どもたちへの福祉教育の一環として、福祉施設で職場体験を行う「ワークキャンプ」を開催しています。子どもや高齢の方、障がいがある方との交流体験から、「まちなかで困っていきそうな人を見かけたら、勇気を持って声をかけてみようと思った」など自分の気持ちに変化があったとの声があがっています。



～支え合う気持ちを後押しします～

地域で活動できる人が増えるように、ボランティア講座などを通して参加を後押しします。参加方法は、たくさんあります。身近な心配ごとを専門機関につなぐこと、寄付による応援も参加のひとつの方法です。

背景

地域では、様々な団体が、高齢者の見守り活動や子育て世帯のサポートなどの地域福祉活動に取り組んでいます。

しかし、その多くが、メンバーの高齢化が進んだことによる担い手不足に悩んでいます。このままでは、活動を維持することが難しくなります。



取り組み例

「高齢者の見守り活動があることを知らなかった」…これは、若い子育て世代が高齢者の見守り活動に取り組んだ時の意見です。参加して初めて、高齢者が1人で過ごす不安を知った方もいます。「子どもと一緒に活動するので、今まで話したこともなかった高齢者が子どもたちに関心や注意を向けてくれるのは安心です」と、見守り活動のやりがいを感じ始めた若い子育て世代も増えています。



児童館に通う子どもたちが、「子どもヘルパー」として地域で催される様々な行事で活躍しています。児童館の夏祭りやクリスマス会でのプログラム作成、シニア世代との地域交流、赤ちゃんとお父さんお母さんとの手遊びや絵本の読み聞かせ、地域の防災活動に参加するなど大忙しです。仲間と力を合わせる大切さや地域を良くしたいという想いを持ちながら頑張っています。

～福祉の“魅力”を発信します～

地域福祉活動により多くの人たちが関心を寄せ、実際に関わってもらえるように、活動の意義や魅力を発信します。また、すでに行われている活動がさらに充実するように、研修会や講座のお知らせ、助成金などのお役立ち情報、活動のヒントやアイデアにつながるユニークな事例をお届けします。

背景

地域福祉活動は、そこに暮らす人たち自身の手で地域をより良くする、とても意義のあるものです。しかし、ひとつひとつの活動は小さく、せっかくの取り組みがあまり知られていません。

取り組み例

2020年に発生した新型コロナウイルス感染症をきっかけに、これまで対面で行うことが当たり前だった地域福祉活動は、大きな見直しを余儀なくされました。創意工夫を凝らした新しい日常を取り戻す、前向きな活動を紹介しています。



新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐために、オンラインツールの活用が呼びかけられましたが、高齢者の中にはなじみのない人もいます。地域福祉活動にもうまく取り入れてもらおうと、地元の大学生が先生となつてSNSの使い方をアドバイスする講座が生まれました。

～日頃から災害への備えを進めます～

被災者とボランティアをつなぐため、災害ボランティアセンターを設置します。災害時には、他団体からの応援を求めながら、円滑に支援活動ができるよう、普段からマニュアルづくりや訓練・研修などを進めています。また、市外で大規模な被害が発生した時には、現地へ職員を派遣するなどして、被災地からの求めに応じた応援を行います。

背景

大雨や台風による自然災害が、毎年のように各地で発生するようになりました。南海トラフ地震が起こる確率も高いと言われています。ひとたび被災してしまうと、元の暮らしを立て直すために多くの助けが必要です。

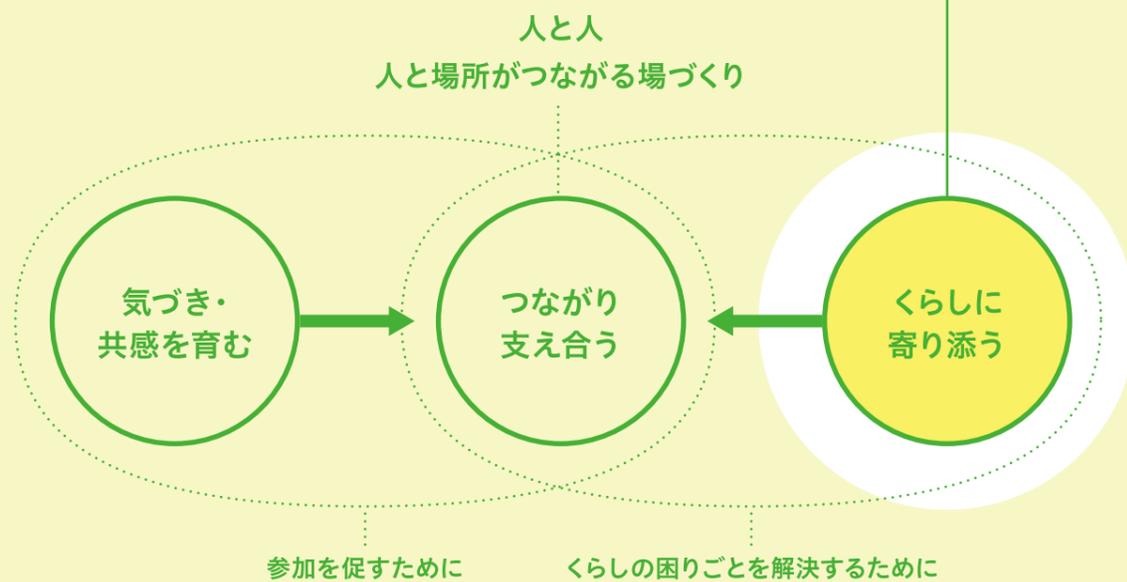
取り組み例

阪神・淡路大震災が神戸のまちを襲った1995年は、被災者の力になろうと全国から多くのボランティアが駆けつけたことから「ボランティア元年」と呼ばれました。その後、大きな災害が発生するたびに被災地の社会福祉協議会が災害ボランティアセンターを設置して、被災者の生活の立て直しをサポートするためにボランティアをつないでいます。2019年の台風第19号で、長野市では市内の河川が氾濫し、住宅地に大量の土砂が流れ込みました。被災地では、土砂の撤去に多くの人手を必要としていたため、ボランティアバスを運行し神戸から応援に駆けつけました。



ミッション Mission “こうべ”の社協が行うこと

くらしに寄り添う



障がいがあっても、高齢になっても、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けたい。  
 そんな想いを形にできるように、一人ひとりの悩みを受け止め、「くらしを守り、自分らしく生きる」ための働きかけを、ご本人に寄り添いながら進めます。  
 生きがいややりがい、地域とのつながりづくりを意識しながら福祉の専門職や地域の皆さんと一緒に、一人ひとりのくらしを支えています。

キーワード 相談 / 専門的支援 / 8050 問題 / 生きがい / 自分らしい生活

～困りごとをまっすぐ受け止めます～

くらしの困りごとや悩みを抱えた本人、そのことに気づいた人達からの相談をしっかりと受け止め、本人に寄り添いながら様々な福祉サービスにつなぐサポートを行います。

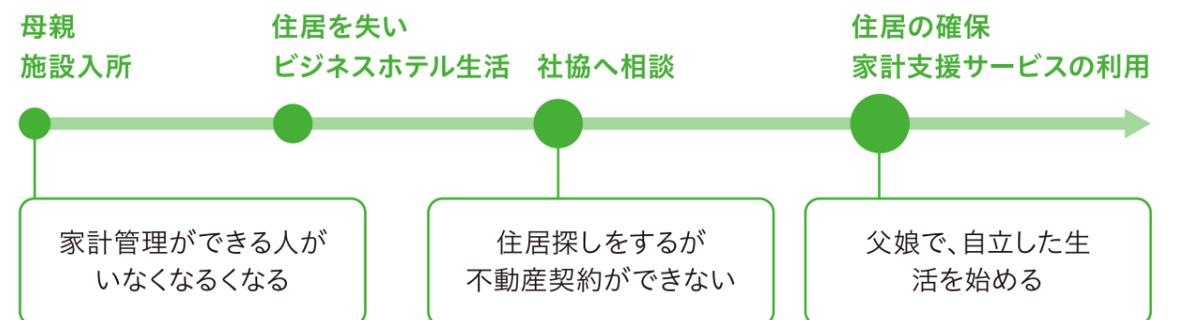
背景

どこに相談すればいいかわからない、世帯全体で様々な問題があるなど、専門的な支援の窓口までたどりつかず、必要な福祉サービス等を利用できていないことがあります。

取り組み例

家計を管理していた母親が認知症で福祉施設へ入所したことをきっかけに、長年働いていないA子さんが家計を管理することになりました。ところが、家賃の滞納がかさみ、生活していたマンションから退去することになりました。  
 知人からの借金やGo toキャンペーンを活用し、ビジネスホテルで過ごしながらか転居先を探しましたが、A子さんと父親だけでは借りられる物件を探すことができませんでした。  
 区社協は、A子さんと一緒に借りられる家探しを行い、不動産契約ができるようサポートしました。現在は家計管理等の福祉サービスを利用しながら、父親と2人の意思が尊重された自立したくらしができています。

【世帯】母 親 / 施設入所  
 父 親 / 年金生活  
 娘A子さん / 働いたことがない



～自分らしく暮らせるように支えます～

地域の中で生きがいや役割を担い、自分らしく生き活きと暮らすために、できることや得意なことを伸ばし、「○○のようになりたい」という願いをかなえるために、福祉の専門知識をもつスタッフとして力を発揮します。

背景

障がいのある方と一緒に暮らしている親が亡くなった後の生活、認知症がある高齢者のくらし、初めての育児の不安など、サポートを必要とする人々が地域にいます。

取り組み例

知的障害のあるTさん(50歳代男性)の介護者である母親(90歳代)が急に入院することになりました。Tさんは、障害者地域生活支援拠点のショートステイ(短期入所)で当面過ごすことになりました。ショートステイ退所後は、相談員が家事援助やこうべ安心サポートセンターの金銭管理サービスの利用調整を行い、自宅でのくらしを始めました。

また、母親が退院後に住み慣れた家に戻るために、あんしんすこやかセンターやえがおの窓口がサポートしています。



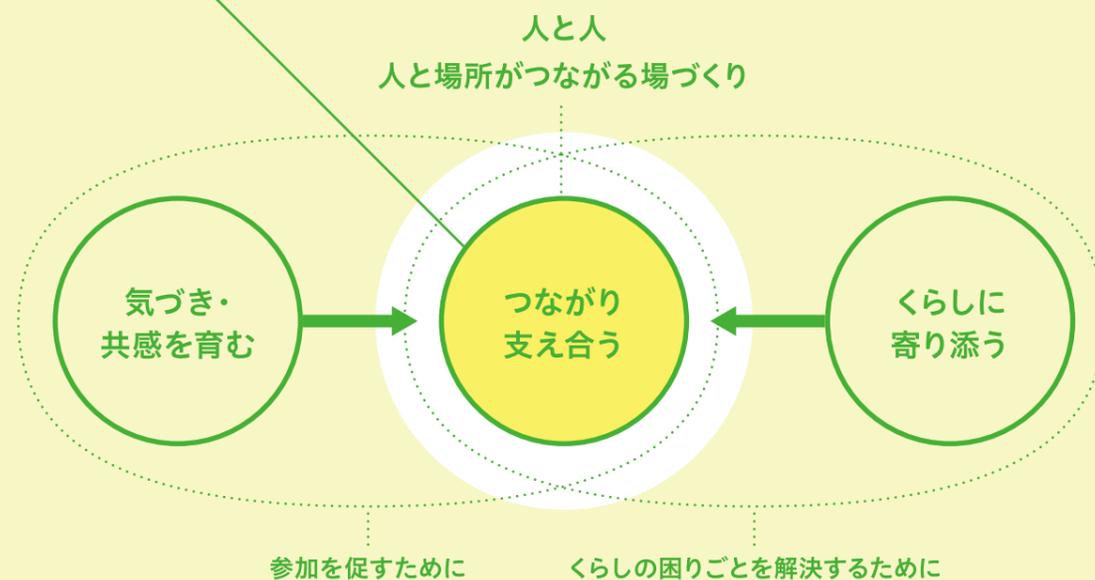
なじみのない地域での子育てや初めての育児に悩むお父さんお母さんのために。児童館では、子どもとの接し方や遊び方、しつけなどについて、専門知識をもったスタッフが相談を聞き助言を行っています。また、親同士がつながることができる講座やクラブも設けています。地域のなかで顔のつながる関係や多世代のつながりができるように、地域の人とのコーディネートも行います。



社協は、障害者地域生活支援拠点、短期入所(ショートステイ)、こうべ安心サポートセンター、あんしんすこやかセンター、えがおの窓口、児童館など、専門的な福祉サービスも提供しています。

ミッション *Mission* “こうべ”の社協が行うこと

つながり、支え合う



ともに支え合う社会にするために、自分のまわりに少しだけ目を向け、心を寄せ、その人らしさを認め合える地域を目指します。人それぞれの得意と苦手をうまく補い合いながら、互いに支え合い、将来の自分を含む全ての人が幸せになる取り組みを進めていきます。

キーワード 地域づくり / 場づくり / 小地域福祉活動 / 連携 / 共生

～支え合い活動につなげるために、話し合う場を作ります～

個人のくらしの困りごとは、地域全体に関わる問題なのだと気付くことが大切です。

地域の皆さん、企業や商店、学校、福祉施設など色々な人や団体が集まり、身近な地域で気になっていることを持ち寄り、話し合う場を作ります。

背景

ひとり暮らしの高齢者のゴミ出し、掃除、買い物など社会福祉制度や福祉サービスでは支えきれないくらしの困りごとがあります。このような個人の困りごとには身近な地域の助け合いで解決できることがたくさんありますが、みんなで話し合う機会はほとんどありません。

取り組み例

高齢者のゴミ出しサポートをきっかけに、自治会、民生委員・児童委員、老人クラブ、福祉施設、NPOなど多くの協力者が顔を合わせることができるようになりました。こうしたくらしの困りごとを話しあう場を、定期的に設けています。

- ▶ 「ごみの分別ができない。ゴミステーションにもっていくのが困難」などの困りごとを出し合う。
- ▶ ゴミ出し支援をしている地域の団体などの取り組みを知る。
- ▶ 自分たちでできることを話し合う。



～支え合い活動のしくみを創り出します～

同じ地域で暮らす皆さんにしかできない、身近な支え合い活動をつくっていくために。知恵やアイデア・得意なことを持ち寄って、柔軟な発想でくらしやすい地域づくりを一緒に考え、取り組んでいきます。

背景

地域にあったらいいなと思う支え合いのかたちは、人によって異なります。けれど、ひとりの力、ひとつの団体の頑張りで創り出すことには限界があります。色々な人が集まって知恵を出し合い、一人ひとりが役割を担っていくことが重要です。

取り組み例

ひきこもりがちの方や人との関わりが苦手な方が安心して集える居場所を、地域の皆さんが力を出し合って立ち上げました。思い思いに過ごせる空間、安心して話せる場所、やりがいを感じる場所、社会貢献できる場所として、関わる全ての皆さんにとって有意義な居場所となっています。

- ▶ 地元の自治会と病院が共同で運営する古民家を活用
- ▶ 社会福祉法人連絡協議会会員の福祉施設による居場所までの送り迎え
- ▶ ボランティアセンターで開催した、居場所づくりのための「寄り添いボランティア養成講座」の受講生の参加
- ▶ 参加者が作った製品を社会福祉法人が活用



～支え合い活動が地域に根付くように応援します～

継続した地域福祉活動は、地域住民のきずなを深め、地域愛を育みます。地域の皆さんのつながりが太く深くなることで、新たな支え合いが生まれます。こうしたつながりは、災害時の助け合いにも活かされます。地域の皆さん同士でさらに顔の見える関係を構築できるように、地域に根差した活動を応援します。

背景

はじめは一生懸命だった地域福祉活動も、あれもこれもとするうちに、しんどくなって、何のためにやっていたのかを見失ってしまうことがあります。また、活動する人の思いが引き継がれなかったり、参加する人同士のつながりが薄くなったり、地域福祉活動が根付かないまま終わってしまうこともあります。

取り組み例

ある地域では、20年にわたって、ひとり暮らしの高齢者のふれあい給食活動が継続しています。「こんにちは。お変わりないですか?」と参加者一人ひとりに声をかけ、笑顔で迎えています。集まってくるひとり暮らしの高齢者は「用意してもらって、みんなで食べるごはんはおいしい」と満足顔です。ふれあい給食への参加を心待ちにするようになり、外で会った時に声をかけてくれる人がいることに安心感を抱くようになったそうです。また、高齢者の閉じこもり予防やつながりづくりの場が、地域で活動する方々にとっての活躍の場・生きがいづくりの場にもなっています。



～違いや文化を認め合う地域を目指します～

外国の方が悩みを抱えたり、孤立することがないように、文化・習慣・考え方の違いを認め合い、地域社会の一員として、ともに生きていける社会を創っていきます。

背景

神戸で暮らす外国人が増え、言葉や生活習慣の違いから地域で孤立するなどの問題が増えています。地域では、多様性を尊重しながら暮らすことが求められています。

取り組み例

地域の中にモスクができ、礼拝に訪れる外国人を多く見かけるようになりました。同じ地域で暮らす皆さんで交流を重ね、互いの文化や生活習慣、宗教上の違いを理解し合う機会を設けました。現在は地域の中で気軽に話ができ、それぞれが尊重し合える関係が生まれています。

外国から来た方の中には、日本の「お弁当」文化に初めて出会う人もいます。外国人の学童保育児童が多い児童館では、3～4人に1人が外国人というところもあり、「お弁当」としてビニール袋にご飯だけをに入れてもってきた子どももいます。そこで、外国人コミュニティに関わる方々や婦人会、ふれあいのまちづくり協議会、お寺など多くの人があつまり、子どものお弁当づくりやゴミ出しなど様々な生活の困りごとを共有しました。その結果、「お弁当づくり交流会」「防災・ごみスクール」の開催が実現しました。



## くらしの困りごとが複雑化、さらに支え合いが必要な社会へ

今わが国では、少子高齢化の進展による家族形態の変化、価値観やライフスタイルの変化を背景とした社会的孤立、就職氷河期世代の就職困難など雇用を通じた生活保障の機能低下、個人や世帯が抱える生活困窮などの「生活課題」(くらしの困りごと)が数多く見られます。

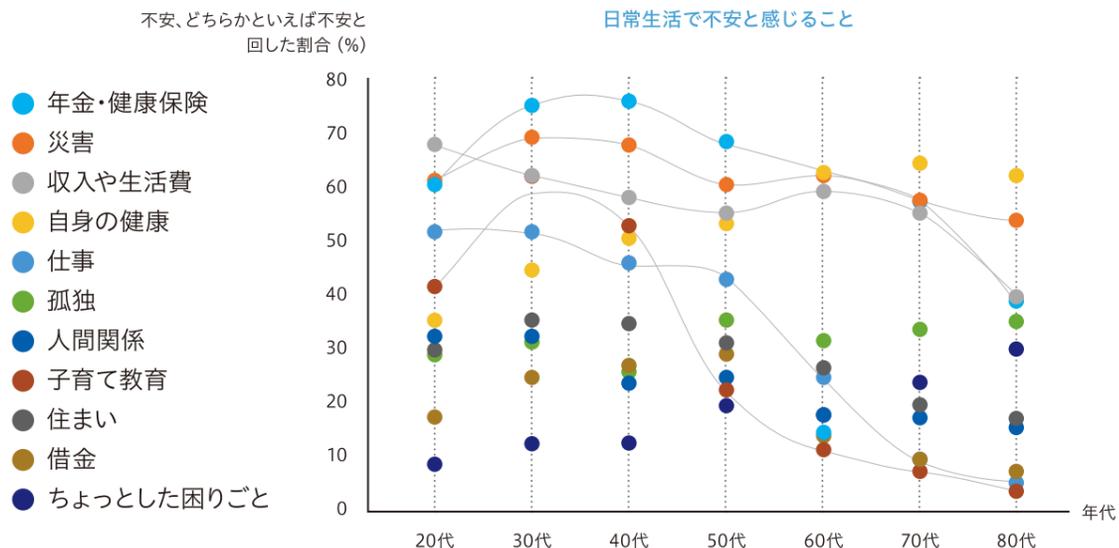
そして、そのような生活課題が複雑に絡み合っ、既存の社会福祉制度や福祉サービスでは支援の手が届かない“制度の狭間”や、一度に多くの生活課題を抱え込む例が多く見受けられるようになりました。

このような複雑化する生活課題に対応していくため、国は、制度・分野の枠や「支える側」と「支えられる側」という従来の関係を超えて、人と人、人と社会がつながり、一人ひとりが生きがいや役割を持ち、助け合いながら暮らしていくことのできる「地域共生社会」(ともに支え合う社会)の実現を目指しています。

「神戸市 市民福祉に関する行動・意識調査報告書」(2020年2月)によると、年金や健康保険、収入や生活費、仕事、子育て教育など日常生活上の不安を問う質問項目全般に、30~50歳代の不安の高さが見られました。そうした不安は、経済的に余裕がなく苦しいと感じる世帯ではより大きい傾向があります。

また、日ごろのちょっとした手助けが得られないことに対する不安は高齢になるほど高い傾向にありました。

2020年度版 厚生労働白書では、くらしの支えが必要な高齢者世帯は過去25年間で3.5倍程度まで増加し、今後25年間でさらに1.5倍程度増えるとされています。年若いても安心して暮らせるように今から取り組みを始めなければなりません。

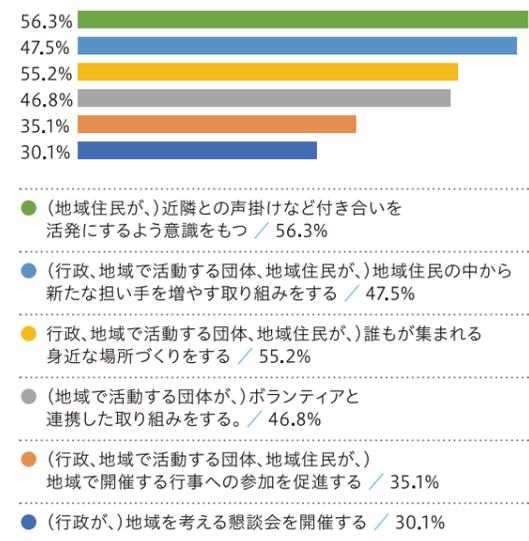


さらに、調査では約2割の神戸市民が日常生活で孤独を感じ、かつ単身世帯においてはその割合が高く、幸福度合いも低い傾向があります。

わが国では、平成の30年間で3世代世帯が約4割から約1割に減少しました。今後も世帯構造の変化がさらに進み、2040年には単身世帯が約4割になるとされています。増加する単身世帯が負うリスクへの対策も急がれます。

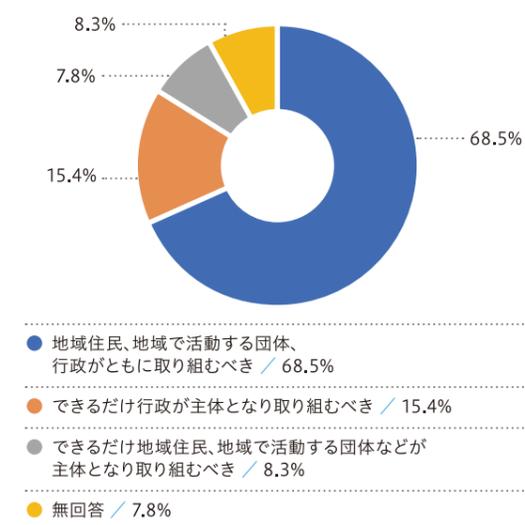
こうした個々の生活上での不安が高まる一方で、調査では「地域福祉活動を活発化させるために、地域住民が近隣と声掛けなど付き合いを活発にする意識をもち」、「誰もが集まれる身近な居場所をつくる必要がある」と考える神戸市民は半数に上ります。

地域福祉活動を活発にするために必要と思うこと (数字は「必要」を選択した割合)



また、「地域住民と地域で活動する団体や行政が一体となって取り組むべき」といった回答は7割近くに上ります。

地域福祉を充実させるため、地域住民、地域で活動する団体と行政はどのような関係であるべきか



地縁、血縁、社縁というような支え合う関係が弱くなったと言われますが、地域の中でお互いに助け合ったり、困りごとを気軽に相談できる近所付き合い、安心して暮らせる地域を望む声は多くあります。

私たち“こうべ”の社協は、調査で見られたような神戸市民の前向きな気持ちがますます拡がり、具体的な活動への参加に結び付くような取り組みを進めていきます。



## 地域の課題は世界の課題、SDGsを日々推進していく

SDGs(エス・ディ・ジーズ)は、この先も持続していくために、社会の様々な課題を2030年までに解決することを目指す、世界共通の目標です。

誰1人として取り残さないよう、あらゆる立場の人が力を合わせて達成することを目指そうと、2015年9月の国連サミットで採択されました。

環境・経済・社会をはじめ、国際的な課題の解決に向けた取り組みですが、地域共生社会を実現するために社会福祉分野が目指すゴールと深く関係します。

“こうべ”の社協では、地域生活課題の解決に向けた取り組みを通して、SDGsを推進していきます。



“こうべの社協”の取り組みとSDGsの関係

<b>1 貧困をなくそう</b> 子どもの貧困、生活困窮支援	<b>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</b> SNSでの見守り、情報格差の解決
<b>3 すべての人に健康と福祉を</b> 認知症、孤独死の予防	<b>10 人や国の不平等をなくそう</b> 外国にルーツを持つ世帯への支援
<b>4 質の高い教育をみんなに</b> 子どもの学習支援	<b>11 住み続けられる街づくりを</b> 単身世帯や買い物弱者支援
<b>5 ジェンダー平等を実現しよう</b> 子育て支援	<b>16 平和と公正をすべての人に</b> 虐待予防
<b>8 働きがいも経済成長も</b> 就労支援へのつなぎ	<b>17 パートナリープで目標を達成しよう</b> コミュニティの活性化、居場所づくり

### 「舞台は地域」「主役は住民」を胸に取り組む

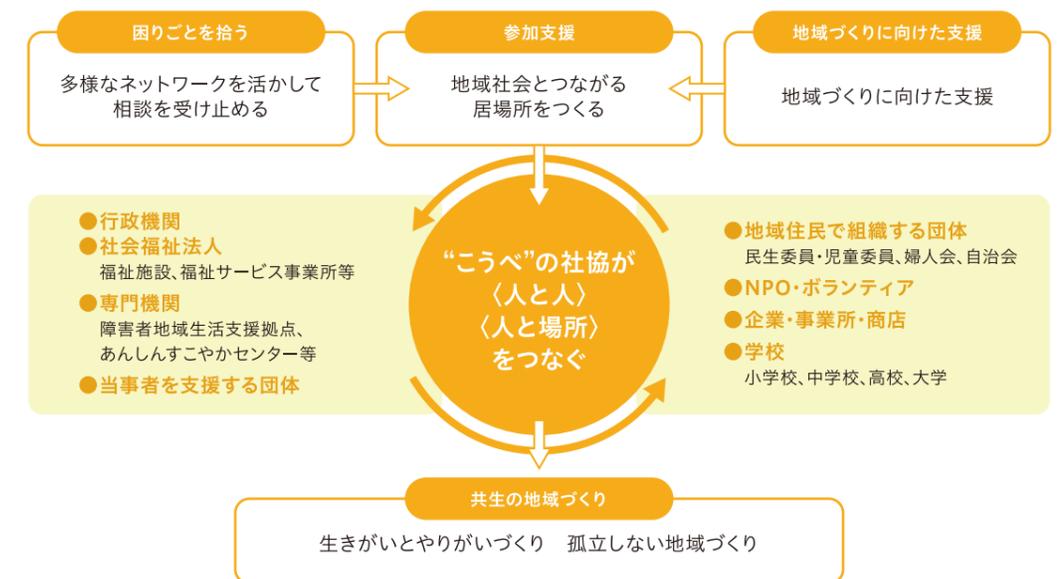
“こうべ”の社協では従来より、市・区社協が相互に連携し、小地域単位でコミュニティワークによる地域づくりを進めてきました。これを小地域福祉活動と呼んでいます。自治会等近隣の小さなエリアでの活動から小学校区域、中学校区域、区域、市域と、取り組むべき課題と地域住民の参加を念頭に、様々な規模で地域福祉活動を推進してきました。

なかでも、地域住民がお互いに顔の見える関係を築ける近隣エリアをもとにした、概ね小学校区を単位とした、活動を基本としています。

近年はこれに加えて、一人ひとりの生活課題を地域全体のものとして捉え、地域のなかで人々が支え合う新たな仕組み・コミュニティソーシャルワークの実践も積極的に行っています。

現在、わが国では断らない相談、参加支援、

地域づくりを一体的に進める包括的支援体制の整備が進められています。地域共生社会の実現を目指すこの仕組みづくりには、福祉分野の専門職に加え、医療や法律などの専門職、そして地域住民同士のサポートやゆるやかな見守りが重要だとされています。これは、あらゆる地域住民が役割を持ち、支え合い、助け合いながら暮らすことができる地域を目指すことを意味しています。こうした考えは、地域住民自身がお互いさまの心で地域の課題を解決できる力を備え、その上で一人ひとりの生活課題に向き合う個別支援を地域で展開してきた、これまでの“こうべ”の社協活動と一致するものです。“こうべ”の社協では、住民が主役となった従来の地域づくりに加えて、こうした包括的支援体制を踏まえ、総合相談機能を一層強化していきます。



### “こうべ”の社協が行う地域福祉活動

社会福祉制度・福祉サービスは、相談窓口を含め、高齢者・障がい者・児童など分野別に整備されています。地域共生社会を達成するためには、分野にとらわれない支援、全てを包み込む支援が今後ますます重要です。近年、地域生活課題が多様化・複雑化することに伴い、課題を解決することを目的として社会福祉制度・福祉サービスの強化が図られています。その一方、地域で行われる支援活動がそうした縦の枠のなかに押し込まれ、柔軟性を発揮できずに疲弊する状況も見受けられます。

個人の生活課題が複雑化し、多岐にわたる傾向にあるため、個別の社会福祉制度・福祉サービスだけでは狭間にある生活課題に対して十分なサポートが行き届かないケースも多く見られます。

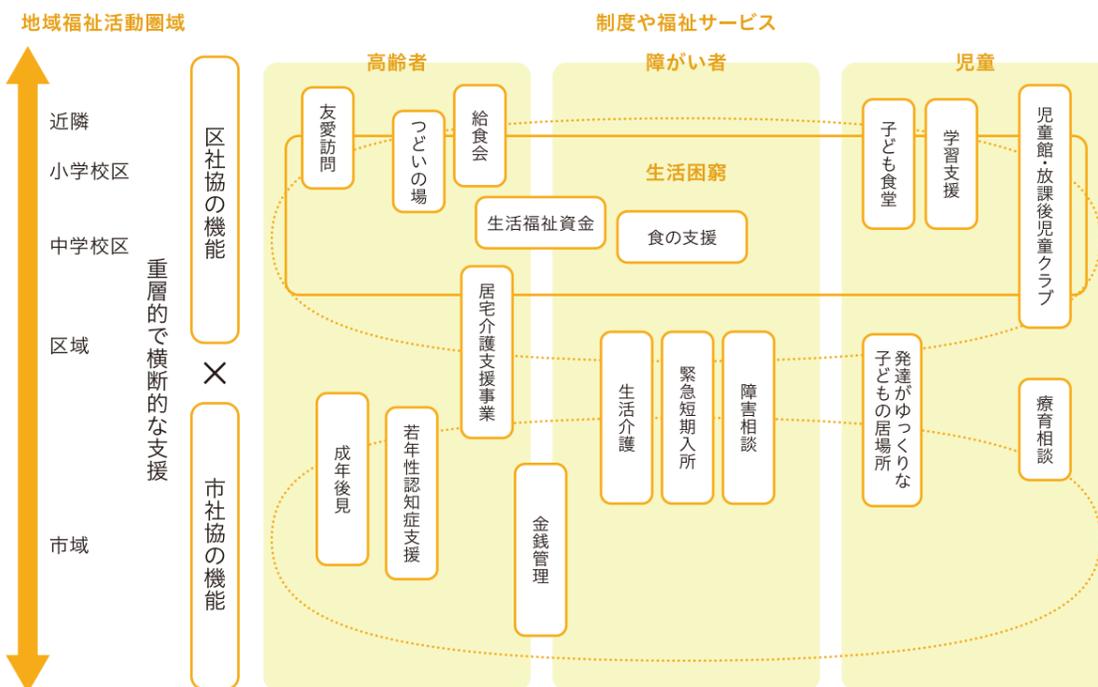
また、生活困窮を始めとする「世帯全体の支

援」が必要な生活課題を抱える場面では、制度の壁を越えてスムーズな連携を行えることが解決の糸口になります。

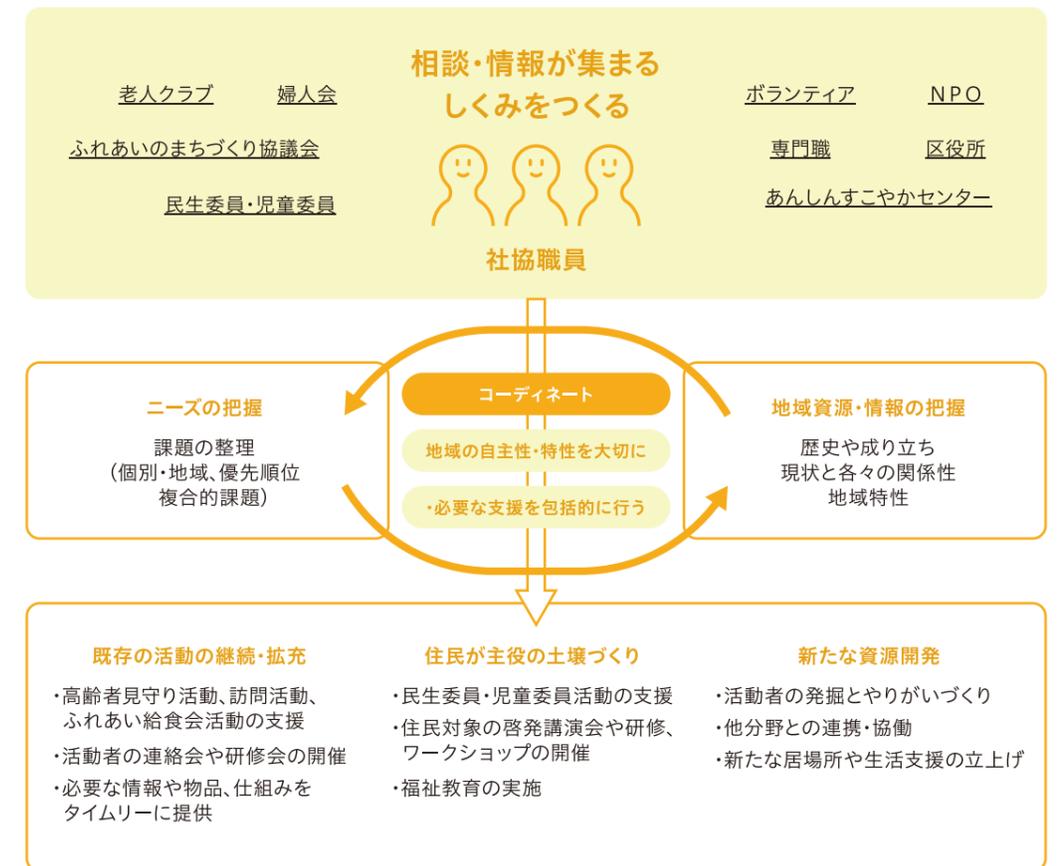
“こうべ”の社協は、住民が主役の地域福祉活動を一層進めていくために、こうした制度で囲まれた枠を超え、分野を超えて連携していく働きかけやサポートできる環境を整えていきます。

さらに、市域を対象とした専門性の高い福祉サービスを提供する市社協と小地域の福祉活動を支える区社協が、それぞれの機能を発揮しながら連携を図ることで、地域を点や線ではなく面で捉え、様々な支援が重なり合う立体的な地域福祉活動を進めていくことが可能になります。

私たちは、それぞれが分野ごとの課題を見据え、総合力・チーム力を活かした支援を意識して実行していきます。



### 地域福祉活動を結びつけるコーディネート



地域と協働 分野をまたがる連携で 地域力を強化!

### “こうべ”の社協の活動を支える体制の強化

さまざまなネットワークを活用しながら、地域共生社会の推進を図るためには組織の力、職員の力を高めていくことが重要です。

活動目標の達成に向けた取り組みと並行し、“こうべ”の社協の体制強化も図ります。



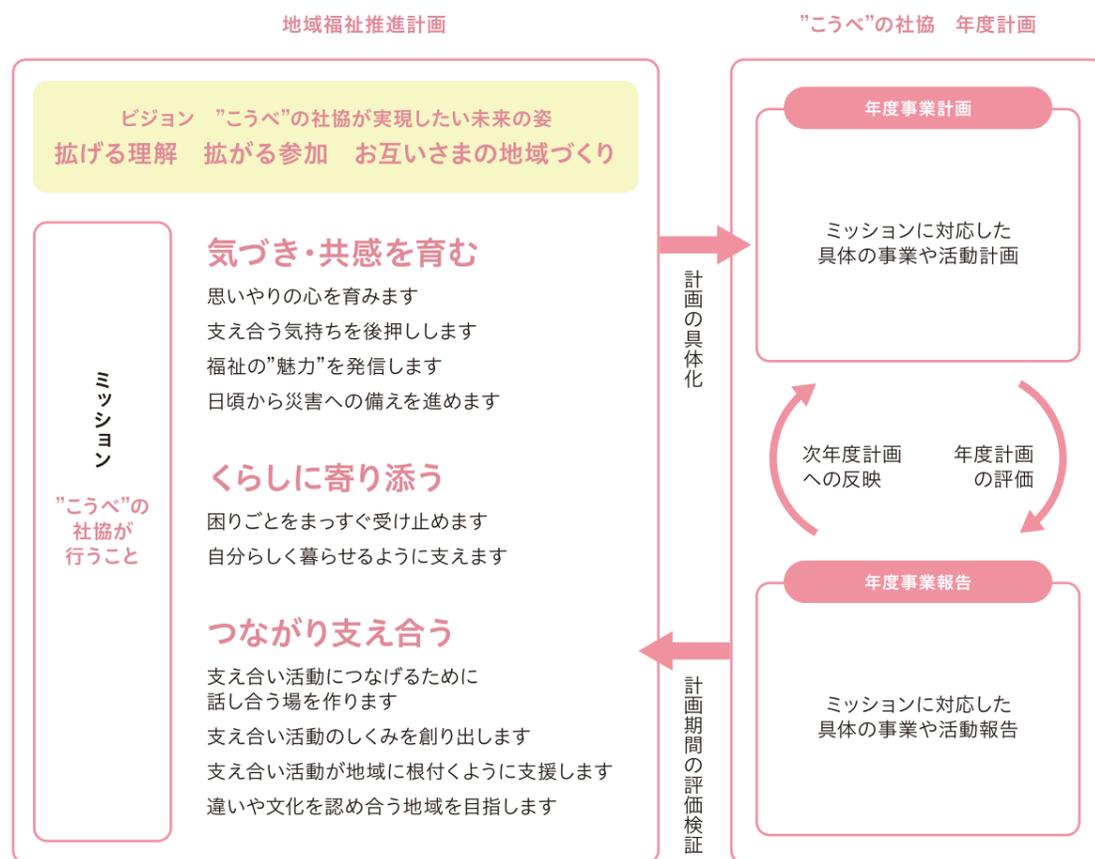
## みんなでもっと支え合う社会を目指す道しるべ

### 計画のねらい

地域福祉推進計画は、ビジョン（“こうべ”の社協が実現したい未来の姿）を明らかにし、地域住民や地域の様々な機関や団体と連携・協働して、地域福祉を総合的に推進していくための計画です。

また、この計画で掲げたミッション（“こうべ”の社協が行うこと）は、市・区を含む“こうべ”の社協が毎年度策定する事業計画の指針となるものです。年度単位で具体的な事業を計画し、取り組んだ実践事例を中心とした成果の評価・検証を通して、ビジョンの達成を目指します。

“こうべ”の社協は、地域福祉の推進機関として、行政と密接な協力関係のもとで活動を展開しています。そのため、行政からの委任を受けて行う事業、補助を得て行う事業も多岐に渡ります。公共性を持ち合わせた民間団体である社会福祉法人として、地域住民一人ひとりのニーズに寄り添い、その人にあった福祉サービスが事業化できるような提案や、行政が取り組んでいない先駆的・実験的な取り組みを率先して行っていきます。



地域福祉推進計画は、2021年度から2025年度までの5か年を計画期間とします。

この計画では、最終的な成果を各種の福祉サービス・支援体制の拡充とともに、地域生活課題の解決に結びついた事例の検証などを通して、地域生活の質の改善に焦点をあてています。

そのため、計画の進行管理は、地域福祉関係者の代表者で構成されている市・区社協の理事会・評議員会で、地域生活課題の具体的な解決に向けた事業内容を検証しながら行います。なお、社会情勢の変化に柔軟に対応していくため、期間の途中であっても、必要に応じた見直しを実施します。

### “こうべ”の市民福祉総合計画2025 との関係

神戸市は、「神戸市民の福祉をまもる条例(市民福祉条例)」に基づいて、市民の福祉の理念を実現するための「“こうべ”の市民福祉総合計画2025」を策定しました。

地域福祉推進計画では、市民福祉条例の理念や「“こうべ”の市民福祉総合計画2025」が定めた方向性を念頭に、相互に連携を図りながら、地域福祉の推進を図っていきます。

### “こうべ”の市民福祉総合計画2025 基本理念

誰もが安心して自分らしく暮らせる市民福祉の実現  
～みんなでデザインする福祉の輪～

市民一人ひとりが地域で安全に安心して暮らすことができ、「支える側」「支えられる側」という従来の関係を超えて、人と人、人と社会がつながり、一人ひとりが生きがいや役割をもち、助け合いながら暮らしていくことができる社会（ソーシャル・インクルージョン）の実現を目指します。

そのためには、年齢や性別、障がいの有無等に関わらず、全ての市民が多様性の理解を広げ、人権を尊重し、互いに関わり合いを持ち、協力することが必要です。さらに、市民、事業者、専門機関、行政が連携をより深め、みんなで福祉の輪を広げていきましょう。



# こ と ば

## P21 文中

### ①コミュニティワーク

地域住民が主役となって地域福祉活動に参加し、ともに課題を解決していく地域づくりを促す働きかけ。

### ③包括的支援体制

1) その人の属性に関わらず相談を受け止める、2) 働く場や居場所などの社会とつなぐ、3) 社会的孤立を防ぐための交流や参加を通して地域づくりを行う…というような3つのサポートを一体的に行うこと。個別の課題への対応と地域づくりの両方を行っていくこと。

### ②コミュニティソーシャルワーク

生活課題を抱える個人・世帯への個別のサポートを通して、地域づくりを促す働きかけ。

### ④総合相談機能

くらしの困りごとを抱える個人・世帯の相談を受け止め、課題解決に向けてご本人に寄り添ったサポートを行うこと。

## P21 図中

### ⑤障害者地域生活支援拠点

障害福祉サービスの利用や日常生活上の相談に関することなど、地域生活をサポートする相談窓口。

### ⑥あんしんすこやかセンター

介護保険サービスの利用など、高齢者の地域生活をサポートする相談窓口。

## P23 図中

### ⑦ふれあいのまちづくり協議会

地域の中で、ふれあい給食、子育てサークル、交流活動など地域を良くするための取り組みを行う住民組織。自治会、婦人会、民生委員・児童委員、老人クラブ、子ども会、青少年育成協議会、PTA、ボランティアグループなどで構成されている。

### ⑧地域資源

地域生活を支えるための社会福祉制度や福祉サービス、人、場所、地域の特性など。

この計画では、法令や社会福祉制度などで使用されている固有名詞を除き、「障がい」の表記にはひらがなを用いています。

## “こうべ”の社会福祉協議会 地域福祉推進計画2025

拡げる理解 拡がる参加 お互いさまの地域づくり

令和3年3月発行

### お問い合わせ・発行

社会福祉法人神戸市社会福祉協議会

〒651-0086

神戸市中央区磯上通3-1-32

こうべ市民福祉交流センター4階

電話 078-271-5314

